



学修支援・教育開発センター



2021年度 「龍谷ICT教育賞・学長賞」 公開審査会 開催

2022.2.24. Thu. 13:00～14:40
オンラインにて開催

コロナ禍において、授業運営に尽力している教員の方々や、学生の学修意欲向上に努めている教職員の方々を対象として、優れた取組を称賛するための制度として創設された「龍谷ICT教育賞」の公開審査会を開催いたします。

ICTを活用した教育効果の向上をはかる実践的な取り組みを皆様と共有する機会です。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

対 象：龍谷大学教職員および学生

申込方法：



左のQRコードを
読み取り、お申込みください。

申込締切：2月21日（月）

<https://forms.office.com/r/JeWHjqSGii>

※ お申込みいただいた方には、
後日E-mailにて参加URLを連絡いたします。



2020年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」
公開審査会の様子

問い合わせ先：学修支援・教育開発センター（教学企画部）

担当：栃木

電話 075-645-2163 E-mail: dche@ad.ryukoku.ac.jp

2021年度「龍谷ICT教育賞・学長賞」公開審査会 プログラム

司会： 学修支援・教育開発センター長／先端理工学部 教授 藤田和弘

開会のあいさつ（学長 入澤 崇）

「龍谷ICT教育賞・学長賞」概要説明

【個人】

タイトル・申請代表者	概要
反転授業とハイフレックス方式を併用した外国語会話教育 法学部 伊藤 貴祥	2021年度第1学期に担当した「コリア語Ⅰ」会話パートの第11～15回授業（6月下旬の非常事態宣言解除後の授業）におけるICT（情報通信技術）を利用した取り組みについて報告する。その期間の授業は、講義部分をオンデマンド動画として受講者に事前に視聴してもらい、練習部分をリアルタイム授業において実施する、いわゆる反転授業として行った。また、その際のリアルタイム授業は、対面授業と双方向遠隔授業を同時に行うハイフレックス（HyFlex）方式で行った。※「コリア語Ⅰ」は週2コマのうち、1コマが「会話」パート、1コマが「読み書き」パートと分かれている。それぞれのパートは異なる教員が担当し、もう一つのパートからは半ば独立した形態で授業を進行する。
100%オンデマンド授業におけるアクティブ・ラーニングの実践 経済学部 神谷 祐介	担当科目「国際協力論」は、受講生（100-120名）がグローバル・イシューへの興味を醸成し、身近での行動実践につなげることを狙いとしている。2020年度のオンライン化以降、完全（100%）オンデマンド型とした上で、アクティブ・ラーニングの実践に努めてきた。まず、ICT3点セット（①短時間(5-30分間)の音声付講義スライド、②特設ウェブサイト、③manaba）を整備した。うち、授業毎に作成するウェブサイトはアクティブ・ラーニングのメイン会場とし、バーチャルな海外スタディツアーや国内研修、身近でのフィールドワーク、創作活動、プロジェクト立案、プレゼン大会などを行った。ウェブサイトに授業内容や関連情報をワンストップ化することで、受講生は、講義スライド、動画、記事、オンラインツール、他の学生の感想などに容易にアクセスできる。結果として、(1)自身にあったペースでの学習、(2)主体的・能動的な活動、(3)高い時間効率性といったオンデマンド独自の強みを最大化することができた。
オンラインによる授業・反復学習・課題の一体化への取り組み 先端理工学部 菊池 隆之助	これまで行ってきた大人数でのマス授業では、理解するための事前準備や理解できなかった部分の反復学習が分離・別箇になる傾向があった。また、授業スピードは平均的な学生の学力に合わせざるを得ない状況にあり、平均を下回る学生からは、解りにくいという声のでる可能性があり、平均を上回る学生からは、簡単すぎるという声のでる可能性もある。オンラインの特性として、受講者は個人ペースで受講できることやManabaなどを通して質疑できること、教員は提出課題に対してフィードバックし易いなどがあげられる。こうした利点を生かし、予習・授業・反復性学習の一体化による「個々の受講者が内容を確実に理解しつつ、授業を受ける」）に焦点を絞った教育効果をねらう。
地域連携を視野に入れたハイブリッド・ハイフレックス授業「コミュニティ論」の展開（と苦悩） 社会学部 坂本 清彦	2020年度後期に開講された社会学部共通科目「コミュニティ論」（受講生61名）において、対面とライブ同時配信の「ハイフレックス」授業を展開した。学生教育補助員を活用してオンラインのメリットを最大限生かしつつ、大津市内で地域活動を行っているシニアグループメンバーをお招きしてリモートで授業参加してもらい、グループワーク補助などの授業ボランティアを担っていただいた。その他、Google スライドによる資料提示や受講生の意見の同時書き込み、Google ドキュメントを利用した授業ノート作成や共有、反転学習用の文献資料のクラウドによる共有など、LINE オープンチャットによる同時双方向の授業連絡等、複数のオンラインツールを駆使して授業を組み立てた。ICT 活用の先進的な取り組みといえるが、「成功」というより反省点が多く、今後のオンライン授業展開への教訓事例として応募する。

【組織的取組】

タイトル・申請組織	概要
YouTubeライブを利用した討論会の実施 ＜政策学部＞	政策学部の一大イベントとして、1年生の「基礎演習討論会」・3年生の「演習討論会」が例年、11月・12月に開催されている。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、対面での実施は感染リスクを高めることから、対面・オンライン併用方式のハイブリッド討論会を実施した。運営方法として、学生は、大学に來校し、密集を避けるため、演習毎の少人数に分かれ、討論の様子を各教室でYouTubeライブ配信を通じて、視聴する。また、討論の1人学生のみ1教室に集まり、各教室で討論を視聴している学生からの質問は、YouTubeコメント欄にて受付し、討論会場の司会担当が読み上げ、発表者が回答する流れとした。なお、採点についても、manabaコースのアンケートを利用し、遠隔で各演習の採点を行い、集計を行った。
社会起業家育成プログラム「バーチャルフィールドワーク」 ＜龍谷エクステンションセンター＞	“誰一人取り残さない”持続可能な社会に向けて、社会問題を身近なところから考え、ビジネスの手法での解決を目指した「社会起業家育成プログラム」を2020年度から開講している。参加学生は、プログラムを通じて社会課題への関心を深め、その解決手法のひとつであるソーシャル・ビジネスのビジネスプランの立案を目指して取り組んでいる。新型コロナウイルスの影響により実地でのフィールドワークが困難となった中、現場の雰囲気より実地に近い形で学生が体験することはできないかと考え、学生がオンラインでフィールドワークをする「バーチャルフィールドワーク」を実施した。
協定校Nanyang Polytechnic 合同オンラインプログラム “Virtual Singapore-Japan Educational Exchange (Summer 2021)” ＜グローバル教育推進センター＞	グローバル教育推進センターは2016年度より一般協定校Nanyang Polytechnic（ナンヤンポリテクニク/シンガポール。以下、「NYP」）との短期交流プログラムとして、夏期に受入れ、春期に派遣を実施してきた。コロナ禍により2020年春期以降はプログラム中止を余儀なくされたが、2021年度夏期は新たにオンラインプログラムを企画、実施した。本学学生60名、NYP学生40名が参加し、龍大生とシンガポールのNYP生の混成チームによるPBLを5日間のスケジュールで実施した。内容としては、①両大学の教職員による提供科目（「日本語入門」「Singlish(シンガポール英語)入門」「外国人の視点からの日本のビジネス」「文化比較講義」など）、②両大学学生によるバーチャルキャンパスツアー・文化紹介及び意見交換・クイズ、③映像プロジェクト（混成チームでのショートムービー作成）、④機毎日放送の協力によるMBS紹介の4点。プロジェクトは全てZOOM上で英語で行った。

閉会のあいさつ

※【個人・グループ】、【組織的取組】それぞれ上から順に進めます。1組10分を予定しています。また途中休憩をはさみます。